

2010年11月29日

## 2010会計年度（第107期）中間決算について

（2010年4月1日から2010年9月30日まで）

株式会社 興人（取締役社長 水野和也 資本金 110 億円）の 2010 会計年度（第 107 期）中間決算について下記のとおり発表いたします。

（記）

### 1. 営業実績（前中間期比）

（金額単位：百万円）

	当中間期 （単体）  （2010.4.1 ～2010.9.30）	前中間期 （連結）  （2009.4.1 ～2009.9.30）	参考 前中間期 （単体）  （2009.4.1 ～2009.9.30）	前 期 比	
				金額	比率
売 上 高	15,279	13,822	13,789	1,457	110.5%
営 業 利 益	1,544	804	830	740	192.0%
経 常 利 益	1,506	811	834	695	185.7%
中間純利益	1,302	1,104	1,212	197	117.8%

（注1） 記載金額については、百万円未満を切り捨てて表示してあります。

（注2） 前中間期は、興国物産運送株式会社の決算数値を連結したものを表示しておりましたが、当該社の清算に伴い、当中間期は連結決算の対象となる会社がなくなりましたので、単体の営業実績のみを当中間期として表示いたします。

（注3） 前期比の欄は、前中間期（連結）と当中間期（単体）の差異を表示してあります。

### 2. 事業（セグメント）別売上高

（金額単位：百万円）

事業部門	金 額	前期比	構成比
発 酵	4,224	106.1%	27.7%
化 成 品	1,633	109.6%	10.7%
化 学 紙	4,315	119.7%	28.2%
フィルム	5,106	108.4%	33.4%
計	15,279	110.5%	100.0%

（注） 記載金額については、百万円未満を切り捨てて表示してあります。

### 3. 営業の概況

当社の上半期売上高は、円高の影響を受けつつも海外向け販売が好調に推移し量的な拡大が見られたことなどから全事業とも増収となり、全体では前年同期比 1,457 百万円の増収（売上高 15,279 百万円）となりました。また、経常利益は、販売数量の増による売上高の伸長と、一部製品の原材料コストの負担低減、固定費の圧縮、更には業務の効率化などにより全事業とも増益となり、全体では 695 百万円の増益（経常利益 1,506 百万円）となりました。

しかしながら、下半期に入って、売上高の増加率が上半期に比して減速傾向にあり、また、今後の原燃料の高騰などによる収益の悪化が予想されることなどから、予断を許さない状況にあります。

### 4. 事業（セグメント）別の状況

#### 【発酵事業】

主力の天然調味料分野製品（酵母エキス）、医薬品原体分野製品（グルタチオンなど）は共に販売数量が増加し、売上高は前年同期比 241 百万円（+6.1%）増収の 4,224 百万円となりました。酵母エキスはこれまでの販売活動が奏功して輸出取引が増加したこと、グルタチオンは市場の在庫調整が一巡したことなどにより売上高を伸ばしています。

#### 【化成品事業】

主力の木工塗料分野、紙薬品分野は国内市場の低迷などにより厳しい環境が続きましたが、電子材料分野、化粧品分野の取引伸長により、売上高は前年度同期比 142 百万円（+9.6%）の増収となりました。電子材料分野では液晶パネル関連、化粧品分野では基礎素材としての需要が伸びていることが増収の背景にあります。尚、アデニン事業からの撤退により売上高は大きく減少しています。

#### 【化学紙事業】

建設関連分野の市場の好転他により主力の 4 製品とも販売数量を大きく伸ばし、売上高は前年同期比 709 百万円（+19.7%）の大幅な増収となり、4,315 百万円となりました。中でも海外向けの化粧版原紙、テープ原紙の販売数量の伸長が顕著で、また壁紙用裏打紙の拡販効果、感熱孔版紙の堅調な販売数量の増加などが増収の形で結実しています。

#### 【フィルム事業】

シュリンクフィルム、コンバーティングフィルム共に前半の市況好調と一部製品の値上げにより、売上高は前年同期比 395 百万円（+8.4%）の増収の 5,106 百万円となりました。シュリンクフィルムは食品包装用途で後半低調に推移しましたが、輸出及び機能性フィルムの分野で拡販の効果も出て増収となりました。コンバーティングフィルムも後半荷動き低調となりましたが、製品値上げと販売数量の増加により増収となっています。

## 5. 2010会計年度（第107期）の見通し

下半期につきましては、市場環境、原料価格変動ほかの面で不透明な部分がありますが、販売数量の上積みによる量的な拡大を図るとともに、販売価格についても市場の動向を見極めて適切に対応してまいります。また業務の改善や生産の効率化などを進めて収益向上に努め、更に操業面の安全・環境管理も徹底してまいります。現時点での見通しでは、売上高、経常利益ともに前年度の実績を上回る見通しです。

以上